

「持続可能な社会の創り手」を育てる



先週の6月14日(火)は、「田んぼに行こう」の日でした。

引率ボランティアの保護者のみなさんが4名と教育実習の学生さんが2名、一緒に行ってくださいました。9時に幼稚園を出発しました。子どもたちが歩いていると、地域の方々もニコニコして挨拶をしてくださいます。安斉ヨシさんの田んぼまで30分くらいで着きました。子どもたちは、安斉さんに挨拶をして、さっそくオタマジャクシを捕りに田んぼのあぜ道を進みました。その様子は、子どもたちに付き添ってくださった保護者の方々が、感想に詳しく書いてくださいました。

- 最初はオタマジャクシをすくえなかった子が、だんだん上手にできるようになったり、怖がっていた子がオタマジャクシや虫を手で触れるようになったりと、短時間で子どもたちが成長するのを感じました。また集団生活の中での子どもの様子を見ることができて、貴重な機会でした。
- 自分だけじゃなくて、他のお友達にもオタマジャクシやカエルを捕ってあげようとしているところにはほっこりしました。思いやりの心が、たくさんあるなとうれしくなりました。
- 普段、図鑑などで見ている生き物を自分の手で捕まえるという、生の体験ができるので良いと思います。虫が苦手な子も、みんなでやると楽しめると思いました。ひまわり組さんと一緒に行動することで、成長していくんだなと思えました。
- 自然のものにじっくり向き合える時間があってよかった。思っていたよりも長くオタマジャクシを捕る時間があつた気がして、満足できたかなと思えました。
- なかなか田んぼで虫捕りをする機会がないので、良い活動だと思えました。私自身、子どもの頃以来の田んぼでの虫捕りだったので、楽しかったです。また家族や幼稚園以外の人たちとのかかわりも貴重な体験だと思えます。

最後に安斉さんから「田んぼの水が大事なように、人間も水が大事だから、みなさんもちゃんと水を飲んでくださいね。」とお話をいただきました。

帰りは岩代清水駅から、「いい電」に乗って帰ってきました。

安斉さんは、「私がやれるうちは、頑張って田んぼをやりますから、いつでも来てください。」と仰ってくださいます。来年もまた行きたいと思えます。

こういう身近な自然や生き物とかかわる活動を積み重ねていくことで、子どもたちは、地球環境や多様な生き物のこと、まだ見ぬ未来のことを考えるようになっていくのではないのでしょうか。今やっていることの結果は、ずっと先にならないと分からないかもしれませんが、今、できることから、身近なことから始めなければと思います。

それが幼稚園教育要領の前文に書かれている「持続可能な社会の創り手」を育てることにつながっていくと考えています。

